

## 釣人の話

萩 沼 護 郎

僕は子供の頃樺太に居たんですが、釣はよくやりましたね。海釣りには舟に乗って行っていろんなものを釣りました。餌には貝を持っていきました。あさりとかほつきとかほたてとか、そんなものを刻んで針にひっかけ、海の中に放り込むんです。カレイなんか面白いですよ。あの大きな皿のようなものが海ん中を水をきって上ってくるのはとても愉快ですよ。普通の魚よりカレイのようなもの面白いですね。

土浦に来て鯉釣りを始めたきつかけというのは、妙な話ですが、昭和十三年の大水なんです。それまではふなとかたなごとかそんな小さい魚を釣っていたんですが、あの水害を境にして鯉釣りを始めたんです。何故かという、鯉がいっぱいいるからです。それまで土浦にはずいぶん鯉を養殖していた家がたくさんあったんですがね、大水害が土浦の街を襲ったために、その鯉がみんな逃げ

出して桜川やら霞ヶ浦に行つたんですね。無論それまでも釣れることは釣れましたよ。家の前は今はドブみたいになってしまった川でも、田んぼでも、ちよつとした小川でもよく釣れたものです。しかし水害を境にして、たくさんの大物が桜川に住みつくようになったんですね。こりや日々遊ばせておくのはもつたいないから、ひとつ釣つてやろうという気持ちになつたわけです。それまでは私はどうやって鯉を釣るかなんて研究したことはなかつたんですが、釣りはじめてからは、けっこう鯉に聞いてきたような釣り方をやりましたよ。

魚釣りつていろいろのは、みんな魚に聞いて来たような事を言つて釣るもんですからね。つまり魚の好きなものだとか、何処に居るとか、そんな事を魚を釣りながら研究するわけです。魚のだまし方ですね。魚は一生懸命でしよう？釣られたらそれで天国行きですから、だからそんなじよそこらの餌に食いつくわけにはいかないのです。その魚をだまして食いつかせる、そこんところに釣りの面白さがあるわけです。最初鯉釣りを始めた頃は、当時普通やっているように、さつまいもを煮てそれを使いま